

湯原王の歌一首

六四二番

我妹子に 恋ひて乱れば くるべきに 掛けて搓
らむと 我が恋ひそめし

紀女郎の怨恨の歌三首

六四三番

世の中の 女にしあらば 我が渡る 痛背の川を
渡りかねめや

六四四番

今は我は わびそしにける 息の緒に 思ひし君
を ゆるさく思へば

六四五番

白たへの 袖別るべき 日を近み 心にむせひ
音のみし泣かゆ